

重点的に取り組んだ活動・内容

項 目	実 践 状 況
1 実践1 【ふわふわ言葉を 使おう】	大みか小学校が、言われると嬉しく幸せな気分になる「ふわふわ言葉」でいっぱいになるような取組を行った。その方策として、職員室前の廊下にある人権コーナーに、「ふわふわ言葉」に関する掲示物を貼ったり、週のめあてに「ふわふわ言葉をたくさん使おう。」という目標を掲げたり、始業式や終業式で校長が「ふわふわ言葉」について話したりする環境づくりを行った。 成果 複数の方策で取り組んだ結果、児童や教職員が「ふわふわ言葉」を意識するようになり、使う頻度が高くなった。人権コーナーの掲示物「ふわふわ言葉」には、「ふわふわ言葉」を使おうという笑顔のイラストとともに、「ありがとう」「すごいね」など具体的なふわふわ言葉とその場面のイラスト入りの掲示物があり、低学年児童にもよく分かる配慮がされていて、学校の中に「ふわふわ言葉」が浸透してきた。また、週のめあてで「ふわふわ言葉」を目標にすることで、教職員の意識も高まり、「ふわふわ言葉」を使う機会が増えた。さらに、「ふわふわ言葉」について学校だよりのトップ記事として掲載することで、保護者への啓発も図ることができた。 課題 大みか小学校が「ふわふわ言葉」でいっぱいになる取組は今年度から始めたばかりである。「ふわふわ言葉」が児童の口からも教職員の口からも自然に出るように、工夫改善を加えながら、次年度以降も継続して取り組んでいきたい。
2 実践2 【校内研修会（人 権感覚を高める）】	教職員の人権感覚を高めることで子供理解の守備範囲を広げ、児童にとって安心感のある教室をつくるための研修を行った。 成果 人権意識をもった児童に対するふるまいや言葉遣いについて知り、自己の言動を内省することで、児童が安心して過ごせる教室づくりを心がけることができた。 ※ 人権意識をもったふるまいとは、大声での強い指導や力での押さえ込みなどをしないこと。 人権意識をもった言葉遣いとは、質問形式の問い詰め、裏を読ませる言い方、見捨てる言い方などしないこと。 課題 人権意識をもったふるまいや言葉遣いは、学校だけではなく、家庭や地域との連携を図り、同一步調で進めることが大切である。児童が安心して過ごせる環境づくりのために、人権教育の研修を継続して行ったり、家庭や地域へ啓発を図ったりしていきたい。